

たなだ

かもがわ

(1) 棚田をまちづくりに生かす鴨川市

つかむ

県の南にある，鴨川市の写真を見て気がついたことを話し合いました。



おおやませんまいだ
大山千枚田



鴨川シーワールド

大きなシャチのショーを家族と見に行ったことがあるよ。



ふしぎな形の田んぼだね。地域によって様子が違うね。



たんじょうじ
誕生寺



鴨川市の位置

鴨川市には、海や山、歴史に関するものを生かした観光地があり、毎年たくさんの方がおとずれます。長狭地区の大山千枚田は「日本の棚田百選」にも選ばれ、多くの人に人気です。

「棚田」山の斜面に作られた「だん」になった田んぼのこと。棚田が一面に広がっている様子から「千枚田」という。



ライトアップされた大山千枚田

だんになっている田を「棚田」というんだね。



なぜ大山千枚田にたくさんの方が来るのかな。

鴨川市では、大山千枚田をどのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。

しらべよう・みてみよう

大山千枚田の様子について調べてみました。

【棚田の一年】



大きな機械は使わず、ほとんど手作業で作っているんだね。

1～2月 3～4月 4～5月 6～8月



田起こし

あぜ
畦めり

田植え

草刈り

8月下旬 ～ 9月上旬



稲刈り

いね
刈った稲のはさがけ

だっごく
脱穀

しゅうかくさい
収穫祭

大山千枚田の特ちょう

大山千枚田は山の斜面を田んぼにして稲作をしています。川もなく、ため池もなく、稲作に必要な水をどこからも引けない田んぼですが、雨の水（天水）をそのまま田んぼに溜めて米作りをしています。

田んぼの土は畑の土とちがい、粘土質の強い土です。そのため水もちが良く、一度田んぼに水がたまるとなかなかぬけません。

急な山の斜面に田んぼを作るので田一枚ずつの面積は大きくありません。面積の大きな田と比べると、とれる米の量は決して多くありませんが、昼夜の温度差や土の質のおかげでおいしい米がとれます。

自然の特長を生かした米作りをしているんだね。



棚田の役割

- ・食料生産の場としての役割があります。
- ・雨が降ると、雨水をためるダム機能があります。
- ・生態系保全の役割があります。
- ・古くから、農家さんの技術や工夫が受けつがれる場になっています。

鴨川市の棚田

かわしろかきのきしろ
川代柿木代



ふたこたなだ
二子棚田



大山千枚田のほかにも、鴨川市には棚田の風景が広がります。棚田はせまい日本の土地で効率よくお米を作るために昔から各地に広がっていました。

ここで作られたお米は、「長狭米（ながさまい）」として、全国に広く知られているそうだよ。



収かくされた長狭米



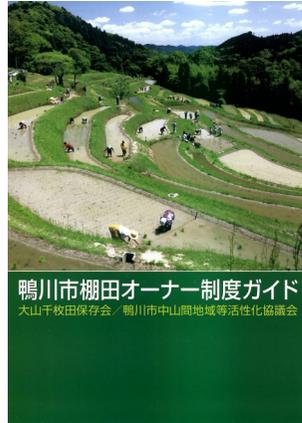
こがねいろ かがや
黄金色に輝く千枚田

ほぞん

大山千枚田では、地域を元気にするために、保存会が作られ、様々な取り組みが行われています。

大山千枚田保存会

棚田を地域の資源として考え、棚田を守ったり地域を元気にするために作られました。棚田オーナー制度や様々な体験活動を運営しています。



(第23回写真コンテスト最優秀賞作品・古西正徳さん撮影)

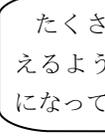
写真コンテストの開さい



保存会のHP



お米をつくるだけでなく、いろいろな自然体験ができるんだね。



たくさんの人に来てもらえるように、保存会が中心になっているんだね。



自然体験・生き物観察



きよてん くらぶ
活動の拠点・棚田倶楽部

大山千枚田を守る取り組み(主なもの)

- 1月…みそ作り
- 2月…オーナー説明会
田植えの準備
- 3月…春の山歩き
山野草まつり
- 4月…田植え
- 5月…田植え
- 6月…どろんこ
バレーボール大会
- 7月…フォトゼミ
(写真撮影教室)
- 8月…草刈り
- 9月…稲刈り・脱穀
- 10月…収穫祭
- 11月…山賊体験
- 12月…しめ縄づくり
もちつき



大山千枚田保存会の浅田さんの話

以前は米作りをする農家さんが高れいになり、少しずつ大山千枚田やこの地域の元気がなくなっていました。

保存会を立ち上げ、国や県から補助金をもらったり、オーナー制度でたくさんの人に関わってもらったりすることで、活気のある大山千枚田が戻ってきました。

毎年、たくさんの方が体験活動や米作りに来てくれます。豊かな自然をこれからも大切に、人々がつながる場になってほしいと思います。

棚田オーナー制度では、県内外の人々が
大山千枚田で米づくり体験を行い、そのみ
力を感じることができます。

【オーナー制度・活動の様子】



田植えの様子



稲も順調に生育。初夏に行われる草刈り



稲刈りから脱穀。
天日干しだからひときわ
おいしいお米が
収穫できます



米作り以外にも、大豆や綿な
どの作物をつくる体験も行って
いるそうだよ。



棚田オーナー制度に参加する人の話

オーナー制度でお米作りを始めて、大山千枚田がもう
一つのふるさとになりました。地元の農家さんも来るの
を楽しみにしてくれています。棚田に関わることで、人とつながり
も増えました。自分たちで棚田を整備したり、大切にお米を育て
たりすることで、かけがえのない経験になります。子供たちは、と
れたお米をたくさん食べてくれます。

棚田オーナー制度

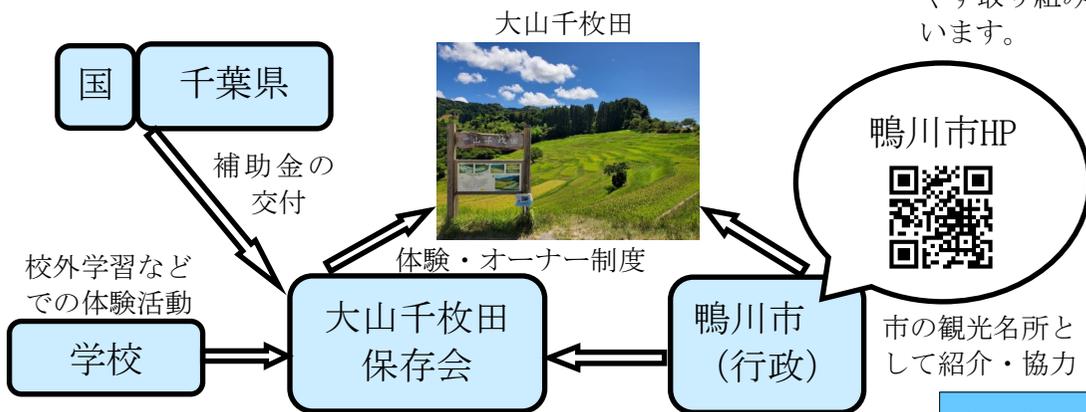
大山千枚田の保
全と活用を図るた
め、稲作希望者が
棚田で米作りを行
う活動です。田植
えや草刈り、稲刈
り、脱穀、収穫祭
など年に9回作業に
参加します。

収穫したお米は
オーナーが持ち帰
ることができます。
参加する人の
多くは県内北部や
東京の都市部の人
です。



鴨川市のホームページでは、大山千枚田
をPRして観光客を増
やす取り組みをして
います。

鴨川市では、大山千枚田を大切な資
源として町づくりに生かしています。



大山千枚田のみ力を伝えたり、守ったりするのに、市や県の人も協力しているんだね。

まとめよう・伝えよう

市川市の様子とくらべてみましょう。